東日本ユニオンにいがた

http://niigatachihon.yukigesho.com/

JR東日本労働組合新潟地方本部
２０２３年１１月１日発行
第１０号（通巻第２８６号）
発行者：星山 圭　編集者：教育・広報部

2023年度年末手当
基準内賃金の3．5ヶ月分

努力に報いる年末手当を！

要求満額実現のために東日本ユニオンに結集しよう！

未払い賃金の支払いを求める

申6号・新潟運輸区B1246行路の酒田場面における労働時間不足に関する申し入れ

新潟地本は10月11日、申6号「新潟運輸区B1246行路の酒田場面における労働時間不足に関する申し入れ」を提出しました。

新潟運輸区の乗務員行路において、必要な労働時間が付与されていなかったことで生じた未払い分の賃金の支払いを求めるとともに、再発防止のために原因と対策を明らかにするよう求め申し入れを行いました。

今年3月のダイヤ改正から運用されている新潟運輸区運転士B1246行路の5M・特急「いなほ5号」の酒田駅入換場面において、必要な労働時間が付与されていないことが社員からの申告により8月末に判明しました。

5Mの運転士は酒田駅1番線に到着後、新潟方の南部引き上げ線に引き上げてから3番線に転線、手歯止めを装着して庄内統括センターの庁舎に向かう足取りとなっています。

乗務員運用行路表によれば労働時間は、入換8分と折り返し時間17分が指定されているだけで、入換を伴う場合に待ち時間として別途付与しなければならない付加時間が付与されていないことが明らかになりました。

そのため、酒田駅到着から作業終了まで34分かかるはずの労働時間が25分で計上され、結果として9分の賃金未払いが生じていました。

このことは乗務員勤務制度に則り、指定された労働時間に即して勤務する乗務労働の根幹を揺るがすものであり、労使間の信頼関係に関わる重要な問題です。

賃金の未払いは労働基準法で禁じていて、罰則も科せられる違法行為です。

コンプライアンスを重視するJR東日本において、労働組合の指摘まで違法状態が続いていた原因も明らかにすることで、二度と発生させないことが重要です。

未払い分の賃金の支払いを求めるとともに、原因と対策を明らかにするため新潟地本は10月11日、申6号として「新潟運輸区B1246行路の酒田場面における労働時間不足に関する申し入れ」を提出しました。

■申6号 申し入れ項目

1．5Mの酒田場面の作業において労働時間不足となった原因と今後の対策を明らかにすること。

2．ダイヤ改正から今日まで当該行路に乗務した社員に対して、労働時間の不足分を賃金精算すること。また、当該乗務員に経緯を説明すること。

3．ダイヤ改正に遡り全ての行路において必要な労働時間が付与されているか確認すること。

2023年度冬期の取り組みについて
求めてきた内容が多く反映

新潟地本は10月11日に支社側より「2023年度冬期の取り組みについて」の説明を受けました。

2022年度申19号・2022年度冬期検証に関する申し入れの団体交渉での議論をはじめ、この間東日本ユニオンとして要求や提言してきた内容も一定程度反映された内容となりました。

■除雪・運転計画、運転整理

最新の気象予報や積雪状況等に基づき無理のない運転計画を早期に判断・決定するとして、従来の24時間降雪予報に加え、新たに36時間予報を試行するとしました。

上越線の折り返し運転のパターンダイヤについては、これまでの長岡～小出間に加え長岡～浦佐間も設定するとしました。

映像共有アプリのトレパトを活用し、運転台からスマホで前方を撮影し指令室等でリアルに雪況を確認することで除雪に活かすとしました。

搭載機器や映像の取り卸し等について尋ねると、乗務員は関与しないと回答しました。

■機械除雪能力向上

移動時間のロスを目的に、坂町駅に2台あるMRのうち1台を金塚駅に転配するとしました。

収容庫から出すための除雪に時間がかかる課題について交渉で議論した経緯がありますが、今回はMR用の消雪設備を新設するとしています。

■構内消雪、構内除雪

昨年度の冬期では実績が無かった乗務員によるポイント不転対応は、昨冬期と同じ24駅で試行を継続するとしました。

越後川口駅構内について、列車の停止位置変更や機械除雪のフランジャー降下の対策に加え、本線停止位置付近に節水型のスプリンクラーを新設するとしました。

昨冬期で課題となり交渉でも議論を行ったホーム除雪については、巡回除雪の契約を見直し、積雪が少ない時にホーム端まで除雪するとしました。

■駅間停車防止対策

機械除雪から営業初列車まで間隔が空く場合は初列車の回送運転等を行うとしました。

■制輪子凍結防止対策

今冬期では必要に応じ、石打駅でパン上げ留置を実施するとしました。

事前の社員派遣や起動確認は行うが、検修の常駐はしないとしました。

■お客さま情報提供

プレスと駅頭掲示の同時リリースに加え、ソフトを使用して本社、他支社、P社、G社にも自動配信を行うことで、前広な情報提供を行うとしました。

■その他の取り組み

昨冬期は倒木が多数発生したことから、調整やコストダウンを図ることでより多くの危険木を伐採するとしました。

昨冬期に架線切断が発生した新潟駅電留線は、架線の二重系化により切断防止を図るとしました。

■旧・長岡車両センター多角的な対策を講じる

組織再編により長岡駅構内となって初の冬期を迎える旧・長岡車両センターについては、多角的な対策を講じるとしました。

夜間の滞泊車両は庫内に6編成、駅ホームに1編成として、全て屋根のある箇所に留置することで、屋根上除雪削減、架線切断の防止を図るとしました。

これにあわせて構内除雪エリアの優先順位を明確化するとしました。

機械除雪を行うP社の構内把握が習熟したことから、日中は営業統括センター社員の添乗は不要となったとしました。

駐車場や通路については、必要により訓練センター社員の応援除雪を行うとしました。